



# 紀要の電子化で変わったこと

～ 聖学院大学の事例 ～



<http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/>

SALA 第22回研修会 事例報告

聖学院大学 菊池美紀

# 大学紹介

Seigakuin University and Schools

**SEIG**

- ◆ 所在地 埼玉県上尾市
- ◆ 構 成 政治経済学部  
人文学部  
人間福祉学部  
大学院（3研究科）
- ◆ 学生数 約3,000人
- ◆ 創 立 1988年
- ◆ 建学の精神 神を仰ぎ人に仕う

# 論叢委員会と発行

- ◆発行：年2回
- ◆根拠：図書委員会規定内に一文。  
個別の規定・内規はない。
- ◆編集：論叢委員長が長期間ほぼ固定。  
執筆要項はあるが編集は慣習によって運用。
- ◆印刷所：創刊時から変更なし。

# 紀要と図書館の関係

- ◆大学紀要 :『聖学院大学論叢』
- ◆発行・編集:図書委員会内の論叢委員会
- ◆図書館との関係

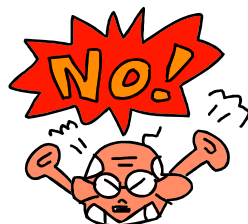
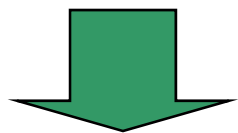
論叢委員会は教員の組織。

図書館は図書委員会の事務を担当。

稟議書、支払い、送付リスト管理のみ。

# 電子化のきっかけ

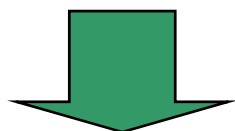
## 電子化を提案



+



## CD-ROMをつけて発行(15巻2号)



+



## 冊子体 + Web公開へ(16巻2号)



+



# 電子化・公開へ

- 退職時に許諾願い(2002～06)
  - 遡及分への準備として
- 投稿規程に電子化・公開を明記(2007)
  - 個別許諾から不可のみ申請へ
- 遡及分の一括許諾(2009)
  - 09現在在職者の遡及分のみ許諾。

Webサイト、NACSIS-ELS、  
リポジトリ(**SERVE**)

**SERVE**

へ

# 「SERVE」

## 聖学院学術情報発信システム「SERVE」 SEigakuin Repository for academic archiVE

<http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/>



- 「神を仰ぎ、人に仕う」  
Love God and Serve His People
- 教職員のあるべき姿  
Servant Leadership

本学の研究・教育の成果を提供することは社会や人々への奉仕につながる。

詳しくは・・・SALA通信17号へ

# 論叢以外に・・・

- ◆ 『聖学院大学総合研究所紀要』  
執筆時、電子化・公開個別了承(2009～)
- ◆ 日本文化学科・学会誌『緑聖文化』  
新規作成分一括電子化・公開承認。  
在職者分一括許諾。遡及中(2009～)





# 2種類のPDF

冊子作成時にデータから作成されたもの

代  
日  
本  
の  
忘  
れ  
ら  
れ  
た  
自  
由  
主  
馬  
場  
恒  
吾  
（  
二  
八  
七  
五  
）  
朗  
一、はじめに

印刷の文字とテキストデータが  
微妙にずれる

冊子から作成したもの

その他特別プログラム

聖学院大学で、充実した4年間で過ごしていただくためのプログラム

面談

英数国講座の受講者を対象としたプログラム。受講生は面談から  
あらかじめ提出し、聖学院大学の学生スタッフが面談します。


印刷の文字とテキストデータが  
完全に一致

# PDF作成

- ①冊子を裁断する
- ②スキャナーで読み込む
- ③OCRをかける
- ④OCRデータの確認
- ⑤OCRデータの修正
- ⑥PDF作成・公開へ



省略へ



# 電子化を簡単に進めるために

Seigakuin University and Schools

**SEIG**

## ① 先行事例を参考にする

SALA、DRFの活用

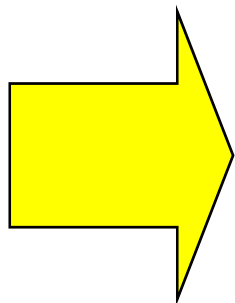
## ② 許諾はあらかじめとっておく

## ③ データ作成時にPDF作成

無料で作成を依頼。データも完璧！

# 電子化をして変わったこと

- 1) 図書館と紀要の関係
- 2) 印刷所
- 3) 発行部数
- 4) 論文投稿数
- 5) ILLの受付軽減化



予算・保管場所の削減  
教員との接点の広がり

# うれしかったこと

Web論文をきっかけとした活動のひろがり

- ・NHK「美の壺」へ出演

10月29日(金) 📺「テディベア」

- ・千歳空港内の施設解説

永井理恵子「人格化される熊(1) :

キャラクターとしての「くま」の魅力の謎」

『聖学院大学論叢』20(1)2007 ほか2編



# 課題とこれから

- ・リポジトリ「SERVE」の充実
- ・発行物の電子化への働きかけ、収集
- ・論叢委員会

執筆要項の見直し、編集方針の明確化

変わる図書館のイメージ?!

**“活動する図書館”を目指して**